



囲碁ボール

会場地 : 丹波市(旧:柏原町)

競技紹介

囲碁ボールは丹波市柏原町で生まれたニュースポーツです。その昔、とても囲碁好きな殿様同士が、村人の領地争いを碁の勝敗によって決めたという故事、「碁賭の勝負」にちなんで「囲碁のまち柏原」をめざし、体力を問わずみんなが楽しめるスポーツとして考案されました。

囲碁ボールは、体育館等で対戦方式により行います。スティックでボールを打ち、碁盤になった人工芝マットにある49個の目(穴)に自チームのボールを縦・横・斜めに並べて得点を競うゲームです。

誰でも気軽に競技ができる手軽さと「多世代」型スポーツとして幅広い年齢層から親しまれ多くの競技人口をもっています。

競技方法



ジャンケンで先攻チームを決めます。(先攻が黒ボールを使用します。)

試合時間は30分で、時間内に5局を競います。30分を経過した場合は次の局に入りません。

1局中に、黒・白各10個のボールを交互にヒット(スティックでボールを打つこと)することにより、49個に分かれた目に停止させることを競います。

得点には、「ライン得点」と「ポイント得点」があります。

【ライン得点】自分のチームのボールが縦・横・斜めのいずれかの目に3つ以上並ぶと「ライン得点」といい、並んだ数を「目(もく)」、できた組数を「連(れん)」といいます。6つ以上並んだ場合は得点となりません。

【ポイント得点】目に停止しているボール数を「ポイント得点」といいます。チームのボール10個がすべてどこかの目に入った場合はポイント得点10の他に、特別にライン得点「5目1連」が与えられます。

勝敗は、全局で数の多い「目」を取っているチームが勝ちとなり、同数の場合は「連」の数が多いチームが勝ちとなります。

競技場の概要

【会場】

かいばら生涯学習の森 丹波市柏原公民館 体育館アリーナ

かいばら生涯学習の森は、丹波の森公苑の一角に、文化・スポーツ・情報・レクリエーションを中心とした生涯学習の場として整備された施設です。

この建物のデザインは、城下町かいばらの面影を取り入れ、かつ丹波の森公苑全体にとけ込めるものとなっています。

この施設内には、柏原公民館と体育館があり、公民館内には、図書館・音楽室・会議室等が、体育館には、フィットネスルームやトレーニングマシンルーム等を完備しています。



かいばら生涯学習の森外観



囲碁ボール体験教室の風景

国体マスコットのはばタンも挑戦しました

